

# 伝統的工芸品産業事業者の 魅力を伝える 知的資産経営報告書

～伝統的工芸品産業事業者の魅力とそれを支える知的資産を明らかにする～

佛壇の山本

2011年3月発行

# INDEX

1. 当社の代表製品	.....	1
2. 当社の概要	.....	2
3. 伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり	.....	3
4. 当社が提供する価値とそれを支える知的資産	.....	4
5. これからの挑戦	.....	5
6. 代表者からのメッセージ	.....	5
7. 作成支援士業コメント	.....	6
8. 知的資産経営報告書とは	.....	7

## 1. 当社の代表製品



しずくの厨子



冥利

## 2. 当社の概要

### ■ 経営理念

信仰道具である仏壇に込められた「親や先祖を敬い尊ぶ」という思いを親から子へ、子から孫へと手を合わす心を語り伝えるお手伝いをいたします。また、長きに渡って用いることができる漆芸品も提供いたします。

### ■ 当社の特長

#### ■ 新しいアイデアを具体化するためのバランス感覚

代表の山本はこれまで、美川仏壇の多くの工程に携わっており、そのため各工程の技術の可能性について造詣が深く、仏壇製造の全体をコーディネートすることができます。新しいアイデアが浮かんでも各工程の技術的可能性に通じていないと具体化は困難です。しかし、山本はそれが可能な能力を備えております。

#### ■ 長く使って頂くための仕組み

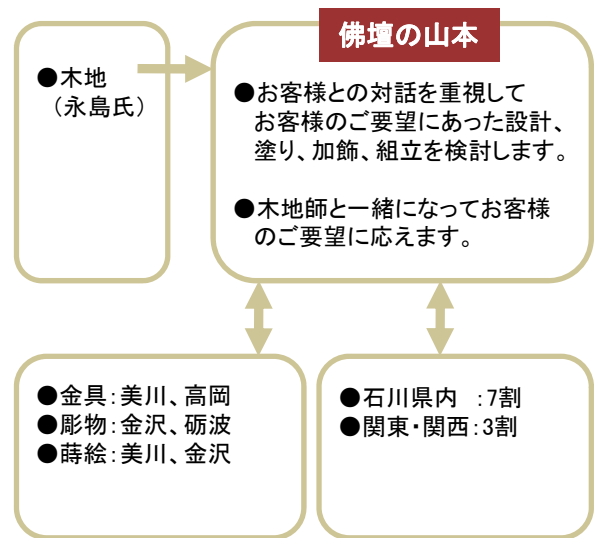
山本は、自ら製造した仏壇に対して「作業報告書」を添付しており、また、10年を目途に点検を行う体制を整えております。「作業報告書」には、工程毎に使用した材料や作業内容、担当職人等の情報が掲載されており、修繕の容易性を高めております。

#### ■ 異業種との連携

山本氏は、技は一流にも関わらず商売が不得手な伝統工芸の職人(金沢和傘、山中塗、和照明、小松畳、石工)を集め、平成15年に「匠倶楽部」というグループを結成しております。

また、新しいアイデアを具現化するために、美川仏壇では用いられない技術を採用するために、輪島塗や山中塗りの職人とも連携を図っております。

### ■ 当社のビジネスモデル



### ■ 企業概要

- 【代表者】 山本 洋二
- 【住所】 小松市里川町マ10番地1
- 【業種】 漆芸品製造業・宗教用具製造業
- 【従業員数】 1人
- 【URL】 <http://mikawa-butudan.com/>

### ■ 沿革

- 昭和52年 美川仏壇の工房に弟子入りし、技を磨く。
- 平成 8年 お客様のニーズに合った仏壇を提供するために「佛壇の山本」として独立開業する。
- 平成15年 石川県内の職人を集め「匠倶楽部」という異業種グループを設立する。
- 平成16年 高い木地加工技術を有する職人を招いて木地工房を設立し、木地づくりから塗りまでの一貫生産体制を構築する。
- 平成18年 匠倶楽部の職人たちと共に日本職人名工会の会員となる。
- 平成21年 石川県の伝統工芸士として認定される。いしかわ産業化資源活用推進ファンド事業採択「美川仏壇の技術を活かした仏壇リサイズサービスの提供について」
- 平成22年 地域資源活用事業計画認定「美川仏壇の下地加工技術を活かした現代生活に合った仏壇の製造と販路開拓」

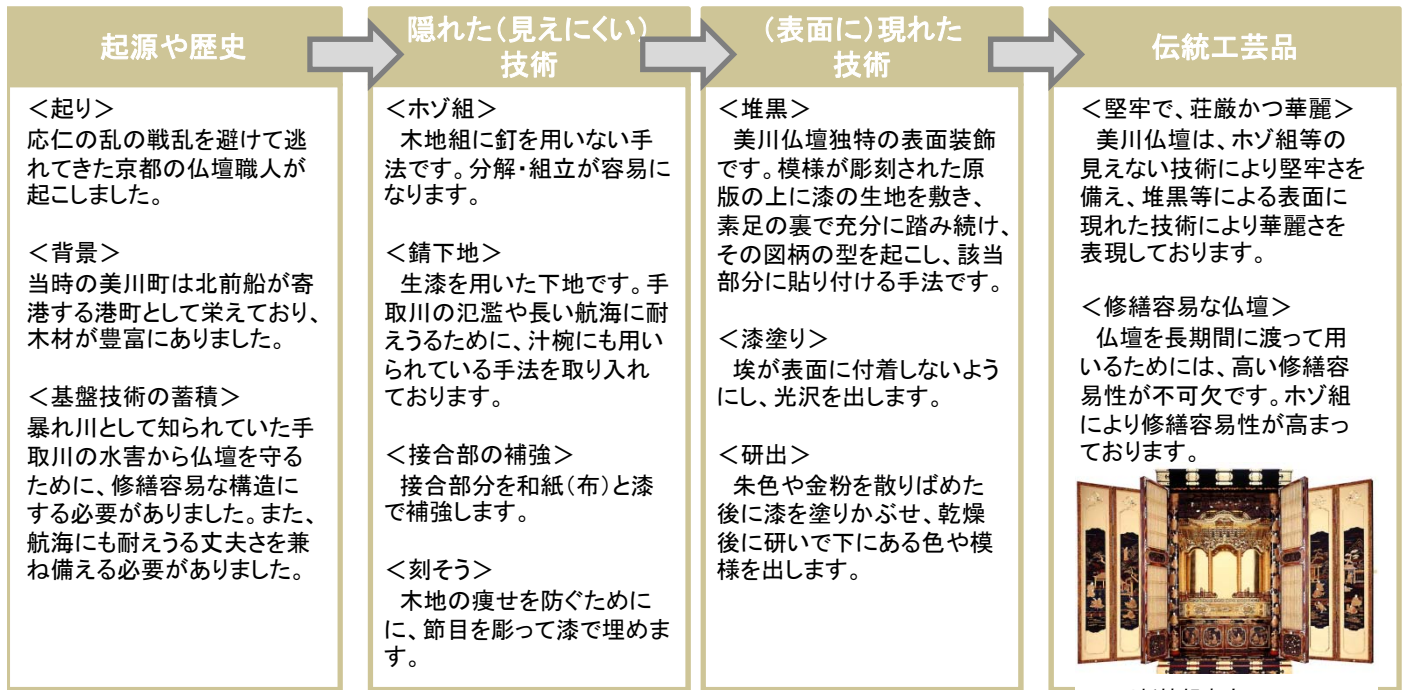
### ■ 連絡先

- TEL&FAX: 0761-47-0017
- E-Mail : [info@mikawa-butudan.com](mailto:info@mikawa-butudan.com)
- 担当者 : 山本洋二

### ■ アクセス



### 3. 伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり

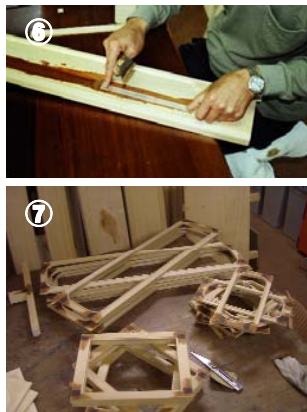
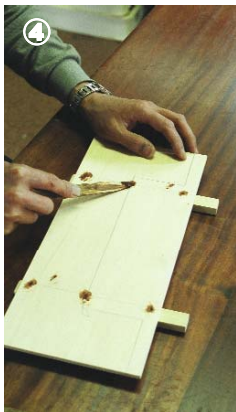


石川新情報書府  
<http://www.shofu.nsk.ne.jp/>

#### ■ 当社のこだわり



- ①細工部木地
- ②下地合わせ
- ③地の粉合わせ



- ④刻そう
- ⑤和紙はり
- ⑥和紙はり
- ⑦和紙はり
- ⑧布はり
- ⑨下地塗り



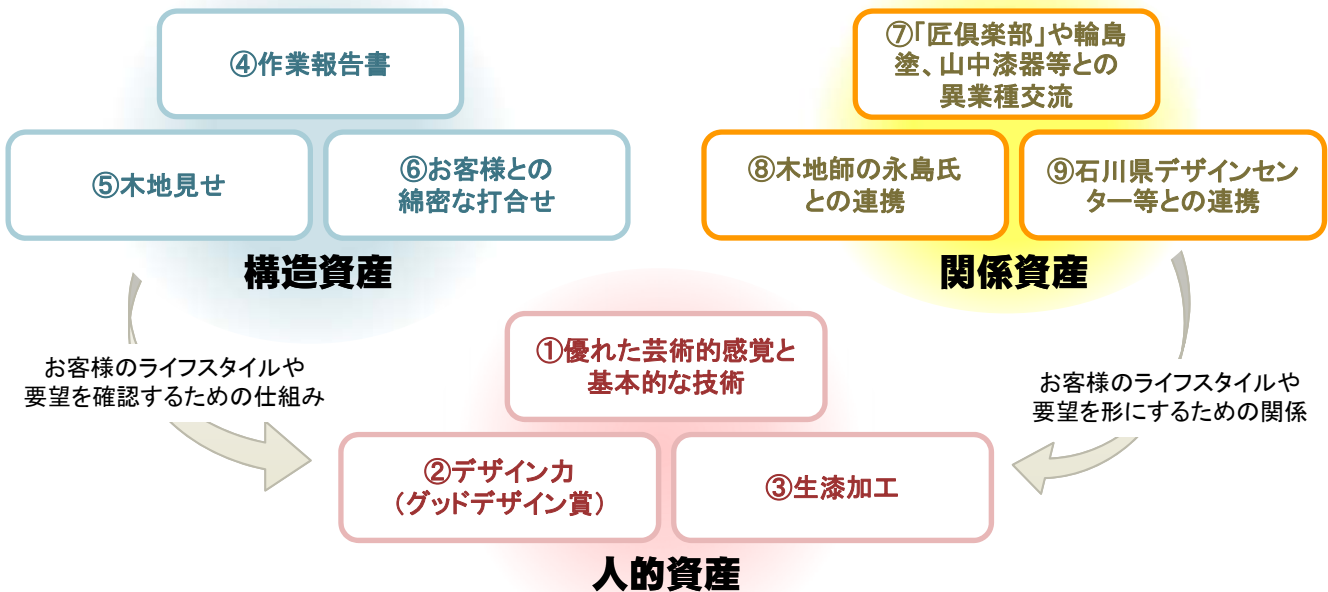
- ⑩中塗り
- ⑪上塗り
- ⑫箔押し
- ⑬箔押し

## 4. 当社が提供する価値とそれを支える知的資産

### ■ 当社のこだわりはなぜ形成されたの？（過去から現在の価値創造のストーリー）

独立前 芸術的感覚や技術の習得	独立後 一貫生産体制等の確立	多様化するライフスタイルに 適応するための技術開発
<p>代表の山本が持つノウハウ等は、学生時代や修業時代に培われてきたものです。</p> <p>山本は幼少期から手先が器用であり、絵画教室で水彩画を学んでおりました。学生時代は、親戚が営む美川仏壇の工房、飲食業界や美容業界でアルバイトに従事しておりました。これらの経験が、現在の優れた芸術感覚を身に付ける一要因となっております。</p> <p>山本は、学校卒業後に親戚の工房に就職しております。塗師と箔押し職人のもとで修業しながら、美川仏壇の木地製造以外のほとんどすべての工程に携わりました。分業制の業界の中で仏壇の製造工程の多くに携われたことは、実現可能性が高く新しいアイデアを生み出すためのバランス感覚を培う一要因となりました。</p>	<p>山本は修業時代から、お客様の要望に応えるためにはどのようにしたら良いか日常的に考えておりました。仏壇の多くの工程に携われた山本だからこそ、全体のバランスを考えることができ、お客様の要望を取り入れやすい思考となっております。山本は自分の思いを達成するために独立しました。</p> <p>独立後は他方面と連携を図って一貫生産体制を築くこと等に取り組みました。山本は自ら納得できる技術力を持った木地師を一時的に雇用しております。デザインについては、石川県デザインセンターからご紹介いただいた漆芸家の大塚氏等と連携しました。大量生産に備えて輪島塗職人と連携し、また、新たな形を取り入れるために山中漆器のろくろ職人と連携しました。</p>	<p>小さいサイズですが本格的な仏壇を求めていた台北の外交官から直接受注したことをきっかけに、小さいサイズの仏壇・厨子の可能性を感じ、リサイズ事業に取り組むこととしました。この事業は、都市部のマンション等に住むお客様のライフスタイルに適した仏壇を提供する事業です。</p> <p>リサイズにはいくつかの課題があり、山本はその課題を解決するための応用技術～生漆加工～を開発しました。この技術は、美川仏壇の特徴的技術である錆地による下地処理技術を応用したものです。</p> <p>なお、同事業に取り組むにあたり、いしかわ産業化資源活用推進ファンド事業と地域資源活用事業計画の認定を受けております。</p>

### ■ 当社のこだわりはどのような人や仕組みで支えられているの？



#### 【提供する顧客価値】

当社は、お客様のライフスタイルに適した仏壇を提供します。

当社が提供する価値の根幹は、山本の優れた芸術的感覚に基づいたデザイン力と技術力等の知的資産です(①②③)。その山本のノウハウを十分に発揮するために、お客様との打合せを綿密に行い(⑥)、お客様の要望を確認するために塗りの前に木地見せを行っております(⑤)。また、修繕を容易にすることとおお客様の満足度を高めるために作業報告書を添付しております(④)。当社の価値を高めるためには外部との連携も重要です。形においては木地師である永島氏や「匠倶楽部」、輪島塗や山中漆器の職人と、デザインに関しては石川県のデザインセンター等と連携しております。

※文章中の番号は、上図の知的資産を意味します。

## 5. これからの挑戦

- 当社は常に進化します。(未来の価値創造のストーリー)

### リサイズ事業の展開

リサイズ事業では、現代の住環境に合った小型仏壇・厨子の製造販売、販路開拓に注力して参ります。

商品展開として、展示会等で販売する定番品と受注生産によるオーダーメイド品の2本建てを検討しております。オーダーメイド品に関しては、古い仏壇の部材を活用した小型仏壇の提案も行います。

販路開拓として、三大都市部にある百貨店の催事や展示会に積極的に出品します。また、ホームページをリニューアルして情報発信力も高めます。



### 漆芸品製造事業

これまで、宗教用具製造業としてお客様のライフスタイルに適した仏壇を提供してまいりました。今後は、仏壇製造で用いてきた漆塗りの技術を活用した漆芸品製造に取り組みます。検討中の製品例としては、貴金属入れやインテリアです。

国内市場だけではなく、うるしは英語でJAPANといわれているため、中国等の海外市場も視野に入れた展開を検討しております。

漆芸品製造事業を展開するにあたって輪島塗の職人等との連携を深めます。

## 6. ～代表者からのメッセージ～



中学生の時は、親戚が経営する美川仏壇工房で手伝いをする。

学生時代は、美容師業界等にて芸術的感覚を養う。

昭和52年 上記工房に弟子入り。

昭和58年 技能奨励賞受賞

平成 8年 旧寺井町に「佛壇の山本」として独立

平成15年 匠倶楽部設立

平成17年 「しずくの厨子」2005年度グッドデザイン賞受賞

国際漆展・石川2005地域産業奨励品

「冥利」石川県商工会連合会特産品審査会優秀賞

平成18年 日本職人名工会 会員に認定

平成21年 石川県伝統工芸士に認定

美川仏壇の塗りに耐水性に優れた「錆地」の技術が使われております。これは、この地方が水害の多い手取川流域のため、耐水性に優れた仏壇が要求されたからでした。錆地を標準仕様としているのは、全国でもまれです。

私たちが大切にするのは、豪華な装飾よりも寸分違わぬ木地の正確さ、堅牢な塗りと洗練された美しさです。そして、本堅地や蒔地といった輪島塗など高級漆器にみられる技法も用いており、小さな漆器をも上回る丁寧なつくりを施していることに誇りを感じています。

「永代に伝わる本物をつくりたい」

私はその一心で技を磨き、手間を惜しまず、手造りにこだわり続けます。

## 7. 作成支援士業コメント

### 中小企業診断士 佐々木 経司

山本様は、お客様やお仕事に対する想いを形にしてきました。想いを形(仏壇)として表現・製作できた要因は、山本様が培われてきた仏壇の製造に対するバランス感覚と優れた芸術的センスが原動力となっていることと伺えます。山本様が形にしてきたのは仏壇というモノの面だけでなく、経営の面でも見ることができます。お客様の所に長くあっていただきたい、お客様のライフスタイルに合った仏壇を創りたいという想いが、作業報告書や木地見せ等の構造資産となって形成されました。

美川仏壇だけでなく、伝統工芸品産業の業界全体が後継者不足で悩んでおります。山本様が培われた構造資産は、後継者を育成するためには有効的な知的資産です。現在山本様はお一人でお仕事をなさっておりますが、後継者が現れた際には、素晴らしい指導者になることが目に浮かびます。

山本様自身は今後、仏壇の枠を越えて漆芸品の分野に挑戦しようとなさっております。様々なことを形にできた山本様だからこそ、次のステップも確実に達成できると思われれます。そして、新たな分野で培った技術や見識を美川仏壇に応用し、業界の更なる発展に寄与することを期待しております。

### 行政書士 勝尾 太一

寸分違わぬ木地の正確さや堅牢な塗りに特徴を持つ美川仏壇は、家にあって親から子、子から孫へと永きにわたり、先祖を畏敬するところを伝えるための要となる品です。現代よりも、お佛壇が生活の中に深く根付いていた時代、数々の水害に見舞われた美川の地において、お佛壇にも堅牢さや修繕可能な構造が求められたことは容易に想像できます。美川仏壇は、絢爛豪華な装飾品ではなく、むしろ、船家具にも似た実用品としての特徴を有しているゆえんであります。その特徴的な構造や仕上げの技は、この報告書にまとめた通りです。

佛壇の山本が購入者に提供する最も特徴的な価値として、「作業報告書の交付」をあげることができます。これは、単に、美川仏壇を特徴づける構造や仕上げを踏襲しているだけではなく、仏壇を真に長く使い続けていただく事を想定した、他に見られない心遣いです。時を経ても、どこにどのような部材を用い、どのような作業をしたのか、さらには作業に携わった職人は誰かということが分かれば、仏壇の修繕、修復に役立ち、真の意味で仏壇が受け継がれてゆくこととなります。一見、簡単にも思えるこの仕組み(構造資産)を確立した事は、分業制の中にあって特筆すべき取り組みであり、佛壇の山本の価値を高めることに大いに寄与しています。また、過去の仕事ぶりを知る重要な資料として、製造に携わる職人(人的資産)の資質向上にも多大な影響が期待されます。

### 弁理士 横井 敏弘

仏壇の山本(以下「当社」)は、美川仏壇の伝統を受け継いでおり、高い技術力を有する職人との連携により「本物」の美川仏壇を提供しています。また、時代のニーズに応じて仏壇のリサイズ事業を展開したり、仏壇製作で培われた技術や人的ネットワークを活用して、漆芸品製作事業を行ったりしています。このように、地域で受け継がれてきた高い技術力と、これを時代に即して展開する応用力が当社の強みであると考えます。

美川仏壇は、地域団体商標を活用した地域ブランドの先進地でもあり、特に、品質保証に力を入れています。「美川仏壇」という地域のブランドと、「仏壇の山本」という自社ブランドとの両方をうまく活用することにより、「高品質」かつ「高い芸術性」というブランドイメージを確立できるものと考えます。

また、漆芸品製作事業では、仏壇とは異なる観点で、品質や芸術性が評価されるため、ブランドの使い分けが有効であると考えます。

地域で受け継がれてきた高い技術力と、当社が独自に培ってきたデザインカとを最大限活用して、地域と共に繁栄されることを期待しております。

## 8. 知的資産経営報告書とは

### 【意義】

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産(特許・ブランドなど)、組織力、経営理念、顧客とネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー(利害関係者)に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動(価値創造戦略)として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成いたしております。

### 知的資産のイメージ



### 【注意事項】

本知的資産経営報告書に掲載しております将来の経営戦略及び事業計画並びに附随する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、弊社の判断にて記載しております。そのため、将来に亘る弊社を取り巻く経営環境(内部環境及び外部環境)の変化によって、これらの記載する内容などを変更する必要を生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に記載した内容や数値などを、弊社が将来に亘って保証するものではないことを、充分にご了承願います。

この知的資産経営報告書は、石川県が株式会社迅技術経営に委託した石川県民間提案型継続雇用創出事業「伝統的工芸品産業事業者の魅力伝える知的資産経営作成事業」により作成いたしました。